

1012. 整域及ビベクク自束 = 関スル

Krull, 豫想 = ツイテ I

中山 正 (阪大)

Krull, 「vollständig ganz-abgeschlossen + 整域ハ常 = speziell + (即チ普通, 実数
1値ヲトル) 賦値, Bewertungsringe, durch-

schmitt = 「ルデアラウ」コトヲ予廻シラ居ラス。
 (Crelka 167 (1932), P. 110 及び Math. Zeitschr. 41 (1936) P. 666; Lovenzen, Math. Zeitschr. 45 (1935) §5 ヲ参照). ソノ束群的或ヒハベクヒ自束的解釈 (幾分強い主張トシテ) 「おひきめです束群 (或ヒハベクヒ自束) の (有限) 実数値函数が同型ニ表現サレルデアラウ」コトが問題ニサレラキル。(上記 Lovenzen 及び Clifford, Ann. Math. 41 (1940) / 最後ヲ参照)

此ガ、コノ束群的解釈ノ方、否定的ニ解決サレル様ニ思フ。即チ反例ガ興ハラレルマウニ思フ。整域ノ方ニツイテモ大体反例ガ興ハラレテ否定的ニ答ハラレルマウニ思フノデスガ、未ダ充分吟味シテポイントガアリマスノデ、ソレニツイテハ第 II デ述ベルコトニシテ今ハ束群ニ限ルコトニシマス。

反例ハ前々号ニ前田、小笠原氏ノベクヒ自束ニツイテノ興味フル談話ガ出マシタガ、ソノ節ニノモノ、小笠原氏ノ談話 999 = オケル結果⁽¹⁾ヲ使フノデアリマス。ソノ小笠原氏ノ構成ノ中ニ「sehr tief zu liegen」トコトガアルノデセウ」トハ勿論デスガ、ソレニシテモ「working on this problem for the past year, with

(1) 吉田サンニ曾テソレト非常ニ近イコトヲマツテ居ラレタ。ピタゴラス環ノトキニ。

no success whatever」サレタ問題が以下ノ様ニ
 割=簡單⁽²⁾=否定サレルノハ少々変バアリ、マク小生ノ全ク
 不案内+事柄=閑シラデスカラ、半信半疑 イサカ自信
 がナイノデスガ、トモカク御報告シマス。

先ヅAヲ complete + Boolean algebra トシ、
 \mathcal{S} フソノ表現空間トスル。即チAノ最大双対いでヤルノ集
 合= Stone-Wallman ノ位相ヲハレタセノ。ソレハ勿
 論完全不連結 \mathcal{G} - \mathcal{G} は^oくヒガガ、更ニ小笠原氏ハ \mathcal{S} ノ上
 ノ(實数又ハ $\pm\infty$ ヲトル)連続函数ガ nowhere dense
 + 集合ヲ除イテハ有限ナルモノノ全体 \mathcal{L} ハーツノ complete
 + (従ツラ勿論あるきめでず的+) \mathcal{G} 自束ヲナスコト
 ノ証明セラレタ。

ソノ場合ニ函数ノ「和」ガ先ヅ問題ニナルワケダガ、ソ
 レヲ小笠原氏ハ西函数ノ有限ナル点ニオイテハ丁度各ノ値ノ
 和ニナル様ナ(\mathcal{B} - 可測+) 函数ヲ考ヘテ、ソレト對等(第
 一種集合ヲノゾイテ一致スル事)ナル連続函数トシテ和ヲ定
 義シテ居ラレル。

サテ上記ノ如キA, \mathcal{S} , ソレカラ作ツタ \mathcal{L} ガAガ適當
 + 条件ヲミタス時ニ上記ノ予想ノ反例ニナツテキルコトヲ云
 フノデアリマスガ、ソレニハ Aヲ適當ニトツテ

(*) \mathcal{S} ノ任意ノ点 \mathcal{P} = 対シテ、ソコガ實際ニ $+\infty$ ニ

2) 整域ニツイテハコト少シ複雑デアリマス。

ナル極ナルノ元 f ガアル ($f(\beta) = +\infty$) 様ニ出来ルコトノ言ヒマス。今假ニ A ヲ適當ニトツテ、コノ極ニナツテキル ϵ ノガ既ニ出来タト 假定シマス。ソウスレバ次ノ極ニナレバヨイ:

\mathcal{S} ノ点 β ニ對シテ、 $f(\beta) =$ 有限ナル $f \in \mathcal{L}$ ヲ考ヘルト、ソノ全体ハ \mathcal{L} ニオケル \mathcal{L} ノ normal subspace \mathcal{L}_β ヲナス。(上)小笠原氏ノ構法カラ容易ニワカル如クニ函数ガ有限ナル点 β テハ、ソノ「和」ノ値ハ丁度値ノ和ナル有限値ニナツテキル)。シカレニ上記假定ニヨリ、 $\mathcal{L} = \{ \beta \text{ ヲ } \infty \text{ ニナル元ガ實際ニアルノケカラ } \mathcal{L}_\beta \text{ ハ } \mathcal{L} \text{ ニハ一致セズ、即チ proper + normal subspace デアル。}$

サテ、 \mathcal{S} ノスベテノ点 β ガ有限ナル函数ノ全体ハ明カニ \mathcal{L}_β デアリ、コレヲ例ヘバ \mathcal{L} トオク。

然ルトキ、 \mathcal{L} ノ任意ノ最大 normal subspace \mathcal{M} ニ對シテ $\mathcal{M} \supseteq \mathcal{L}_\beta$ ナルコトヲイフ。コレガ云ヘレバヨイ。

何者、 \mathcal{L} ニテ (有限ノ) 実数 α ノ準同型トハ \mathcal{L} ヲアル最大 normal subspace \mathcal{M} ニ剩餘ヲトルコトデアリ、従ツテソノ際 \mathcal{L}_β ノ元ハ常ニ 0 ニナル。即チ \mathcal{L} ハ (有限) 実数ノ函数テハ次シテ同型ニ表現サレタイ。

\mathcal{M} ヲ \mathcal{L} ノ任意ノ最大 normal subspace トスル。ソノ時

i) 一点 β ガアツテ $\mathcal{L}_\beta \supseteq \mathcal{M}$

ii) $\mathcal{N}_f \supseteq \mathcal{N} + \mathcal{L}_f \in \mathcal{L}$ の存在を示す。

トイフニツノ場合が考へラレル。

先づ i) ノトキニハ $\mathcal{N}_f = \mathcal{N}$ (\mathcal{N} ハ最大デカラ)。
故ニ $\mathcal{N} \supseteq \mathcal{N}_f = \mathcal{N}$ デヨイ。

ii) ノ時ニハ各 $f \in \mathcal{L} = \mathcal{L}$ 対シテ $f(x) = +\infty + \mathcal{L}$
 $f \in \mathcal{N}$ ガアル ($f > 0$ デアルトシテヨイ)。 f ハ連続
デカラ f ノ適当ト近傍 U_f ヲトレバ $q \in U_f \rightarrow f(q)$
 $\geq \alpha$ (α ハアルキマツタ正数)。 \mathcal{L} ハ ω ニモバ $\langle \mathcal{L} \rangle$
カラ、有限個ノ $U_{f_1}, U_{f_2}, \dots, U_{f_n}$
デアラヘル。 $F = f_{f_1} + f_{f_2} + \dots + f_{f_n}$ (\mathcal{L} = オケ
ル意味ノ和ナルコト勿論) ヲ考ヘル。

$F \in \mathcal{N}$ 。

然ラバ F ハ \mathcal{L} ノスベテノ点ヲ $\geq \alpha$ ナルコトハ明カデア
ル。(和ノ定義参照)。故ニ如何ナル有限 (徒ツテ有界ト)
 $g \in \mathcal{L} = \mathcal{L}$ 対シテモ $|g| \leq nF$ ナル n ガアリ、 $g \in \mathcal{N}$ トナ
ル。故ニ $\mathcal{N} \subseteq \mathcal{N}_f$ デアル。

ヨツテ主張ガ証明サレタ。(註: 実ハ勿論) ノ場合
ハナイデアアル。何トナラバ、 \mathcal{N}_f ハ決シテ最大 normal
subspace = ナラナイ。ソレハ \mathcal{N}_f トアル $f(x) =$
 $\pm\infty + \mathcal{L}$ デ生成サレタ normal subspace ハ f
デ f ヨリ高イ order デ $\infty =$ ナル函数、例ヘバ f^2 ヲ
含マナイカラ \mathcal{L} ト一致シナイノデアアル。コノ事ヲ先ニイッ
テ i), ii) ナドトイハナイガコカッタデアラウ)。

残ル、ハ A ヲ適当ニトツテ、 \mathcal{L} ガ上記ノ条件 (*) ヲ

ミタス様 = スレバヨイ。 (ソレニハ例ヘバ A が atom ヲ
 モツテキタリシテハイケナイ。 ソノ元 = 対応スル \mathcal{S} ノ点ハ
 自身 open set ヲソコデ $\infty = +$ ル \mathcal{L} ノ元 + ド + イ)。
 ソコデ, A トシテ

complete + Boolean algebra ヲ, ソノ中
 = 可附番個, atom ヲ + イ元 $v_1, v_2, \dots, v_n, \dots$
 (イツレモ > 0) ガアツテ, 而シテ任意ノ $a (> 0)$ 元
 $A =$ 對シテ $a \geq v_i$ + ル v_i ガアル様 = + ツテキルトス
 ル。例ヘバコノ様 + A トシテハ $(0, 1) =$ オケル open
 sets mod. nowhere dense sets, + ス
 Boolean algebra ヲトレバヨイデアアラフ。(2) (Birk-
 hoff ノ本 101 - 102 頁参照)。

A ガコノ様 + $\{v_n\}$ ヲモツトスル, 然ラバ \mathcal{S} ノ任
 意ノ一点, スナハチ A ノ最大双對い \mathcal{J} 中 $\mathcal{J} =$ 對シテ,
 \mathcal{J} 中 = 可附番個, 單調減少列 $w_1 > w_2 > \dots > w_n > \dots$
 \dots + $\inf. w_n = 0$ + ル元, ガアル。ソレハ明カデア
 ル。

何トトラバ $\mathcal{J} = \{w\}$ トスレバ 確カ = $\inf. w = 0$
 デアル ($\inf. w > 0$ + ラ \mathcal{J} ハ最大双對い \mathcal{J} ガアリ得
 + イ; A ノ元ハイツレモ atom ヲ + イ) カラ, w_1 ヲ
 $w_1 \neq v_1$ + ル如クトリ, w_2 ヲ $w_1 > w_2$ + $w_2 \neq v_2$

(2) 例ヘバ有理数ヲ端 = ∞ ヲ開區間ヲ v_1, v_2, \dots トスレ
 バヨイ。

トククトリ, ----- シテ行ケバヨイ。

扱テ \mathcal{F} ヲ \mathcal{S}_0 ノ 点ト 見レバ, \mathcal{F} ハ w -set ($w \in \mathcal{F}$) =
フクマレ、而シテ $\bigcap (w_n\text{-set}) \ni \mathcal{F}$ デアル。コト =
 w_i -set ハ 開且ツ 開デアアル。 \forall intersection ハ 開
集合デアアルガ、nowhere dense デアル。トセテラ、ソ
ウデナシレバアル開集合ヲ、従ツテアル a -set ($a > 0$)
ヲフクミ、然ラバ $w_n\text{-set} \supseteq a\text{-set}$ 即チ $w_n \geq a$
($n = 1, 2, \dots$) トナツテ矛盾。

即チ $w_1\text{-set} \supset w_2\text{-set} \supset \dots \supset w_n\text{-set} \supset \dots$
ナル 開且ツ 開ナル 集合 $w_n\text{-set}$ ノ 單調列ガ エラレテ、ソ
ノ intersection ハ nowhere dense set ($\ni \mathcal{F}$) デ
アル。ヨツテ $f(\omega)$ ヲ

$$\omega \notin w_1\text{-set} \text{ 十ラ } f(\omega) = 0$$

$$\omega \in (w_n\text{-set}) - (w_{n+1}\text{-set}) \text{ 十ラ } f(\omega) = n$$

$$\omega \in w_n\text{-set} (n = 1, 2, \dots) \text{ 十ラ } f(\omega) = +\infty$$

トスレバ、コレハ 連続函数デアリ (w_i -set ハ ミナ 開且
ツ 開ナルコト = 注意), \mathcal{L} = 属シ, \mathcal{F} デ $+\infty$ デアル。

\mathcal{F} ハ \mathcal{S}_0 ノ 任意ノ 一点カカラ、コレデ (米) ナル \mathcal{L} ガ
出来タワケデアアル。

コレデ 東群ノ 場合ノ 予想ノ 反例ガ 出来タ様デアアル。整
域 = ツイテハ 次回 = 論ジマス。

以上 何カ 間違ヒガアルカモ 知レズ、マタ 自分ガ 知ラナイ
ダケデ 自明ナコトヲ 長々ト 書イタリシタ 箇所モアル様 = 思ヒ
マスガ、何ダカコレデ 良ササウ = 思フノデスガ?! 御表示

ヲ願ヒマス。